

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（営業担当）	・携帯電話の新機種発売に伴い、旧機種の値下げが大きくなるため、販売台数が大幅に増加する。
	やや良くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・事務所のリニューアルなどで事務用品の納入の動きが出てくる。販売価格は厳しいが、販売量は増加する。
		百貨店（営業担当）	・これからは小売でバーゲン色の展開が見られるが、客は価格だけを重視する傾向から「上質・高質」を求める動きに変わりつつある。提供する側でも次々に新しい商品展開を行えば、消費は活発化する。
		百貨店（営業担当）	・気温の上昇とともに夏物衣料が好調となり、このまま推移すれば秋物の落ち込みはない。特にヤングミセスのファッションに好調な兆しが見えてきた。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・高齢化が進むにつれ、もろみ酢などの健康関連食品や漢方薬の動きが今後更に活発になる。
		通信会社（営業担当）	・ボーナス時期に入り、夏商戦が本格化するなか、ワンセグ携帯電話の新機種の発売効果もあり、販売量、来客数とも増加する。
		競輪場（職員）	・1日当たりの入場者数、売上高は今年2月以降、若干ばらつきはあるものの回復基調が続いており、また8月には大きなイベントが開催される。
	住宅販売会社（従業員）	・昨年の夏場は悪かったが、今年は住宅ローン金利の先高、土地価格の下落などの好材料があるため、期待できる。	
	変わらない	スーパー（営業担当）	・売上は今後変わらないが、原油の高騰により一部の販売商品やトレーなどの陳列品の単価が上がり、利益がますます出なくなる。
		スーパー（副店長）	・6月の中元ギフトの早期予約は前年を15%下回っており、今後の不安材料である。
		コンビニ（店長）	・前年に比べて景気は徐々に良くなっているが、これが上限である。夏場に猛暑が来て季節商品が爆発的に売れない限り、現状のまま推移する。
		衣料品専門店（経営者）	・ファッションでは当面、際立った流行もなく、横ばいで推移する。
		家電量販店（経営者）	・新製品も単なるデザインの変更やわずかな機能・性能の向上だけでは買換え需要は生まれない。デジカメやDVDレコーダー、薄型テレビ、乾燥機能付き洗濯機といった画期的な商品が登場すれば、新しい需要や買換え需要が生じる。
		家電量販店（店員）	・テレビは地上デジタル放送の実施局が出そろい10月まではあまり盛り上がらない。パソコンも前年に比べて単価、販売数共に落ちており、また季節商材は先が読めず、全体としては現状のまま推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・市場は台替需要が中心になり、買い替え車種は小型車と低価格車へのシフトがますます強くなる。特にガソリン価格の急激な上昇は購入時の予算に大きな影響を与える。
		乗用車販売店（総務担当）	・当面は新型車の投入予定はない。現行モデルは小型車を中心に堅調であるが、売上総量の拡大にはなっていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・中高年層の来場が極端に減少しているため、先行きが心配である。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・他店にない独自商品は前年同様売れているが、中元商戦は期待できない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は例年並みで推移する。夏場は団体旅行や大型の宴会が少ないため、変動は少ない。
観光型旅館（経営者）		・夏休みの予約状況は前年比110%と好調であるが、秋以降は直前予約の個人客が中心のため心配である。	
観光型旅館（スタッフ）		・6月の売上は前年を上回っており、9月まではこの傾向が続く。	
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、レストラン利用客は増加を見込んでいるが、宴会利用客が伸び悩んでいる。婚礼件数も前年を下回る推移となっている。		
通信会社（役員）	・光回線を使用したインターネットの高速サービスを求める利用者が増えている。このため、当社が主に提供する低・中速サービスでは一部解約の動きが見られるものの、全体としての利用者は確実に増える傾向にある。		
住宅販売会社（従業員）	・金利高、原油の高騰などで資材価格が上昇し、一部価格転嫁しているが、加工賃などすべては吸収できない。今後、販売価格の競争が更に強まる。		

		住宅販売会社（総務担当）	・消費者は6月から定率減税廃止に伴う税負担の増加を実感しており、住宅取得に対する意欲減退が懸念される。
やや悪くなる		百貨店（売場担当）	・来客数の減少により、季節商材を中心として販売量が落ちしており、この傾向は当面続く。
		コンビニ（経営者）	・今後、たばこの増税による影響が出る。また、サッカーワールドカップの関連グッズの売上也落ちるため、話題性のある商品やイベントがないと、苦しくなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・段ボールなど石油製品の値上げ要請もあり、コストアップにつながる。また、空梅雨による野菜の高騰も懸念材料である。
		旅行代理店（従業員）	・原油高騰による輸送費の増加が海外・国内旅行代金に上乘せられるため、夏のファミリー旅行に対する影響が懸念される。
		通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティの開始が近づいており、買い控えとなる。
		パチンコ店（店員）	・今までの稼ぎ頭であった機種を、検定切れにより外さなければならない。
		住宅販売会社（従業員）	・銀行ローン金利が更に上昇すると予想されるため、客の動きが一層鈍くなる。
悪くなる		商店街（代表者）	・原油高騰の影響が、2次・3次製品等にも連鎖し、そろそろ一般消費者に広く影響してくる。値上がり分を吸収していた企業も相当苦しい状況になる。
		スーパー（店長）	・6月に大型スーパーが開店し、更に7月末に別の大型スーパーが開店する。現時点ではあまり影響がないが、やがて売上の悪化は必至である。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・秋口に新製品の受注が決まっているため期待できる。ただ、同業他社を見ていると、必ずしも楽観できない状況である。
		通信業（営業担当）	・IP電話の普及により、事業所向けの需要がますます増える。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・来年の春夏物への変わり目に入るため、先の明確な動向は見えにくい。期待はあるものの、不安も残る。
		繊維工業（経営者）	・全国的に5月ごろから気温が低いため、初夏物の動きが悪く、苦戦を強いられている。秋冬物も楽観視できない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社を含めて、同業他社メーカーの設備増強が目立ち始めた。過去の経験から、この時期は受注のピークになるとみられ、今後は若干スローダウンする。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・ゼロ金利解除、原油価格、為替など、不透明な点がまだ多くあり、大幅な変化はない。
		輸送業（配車担当）	・軽油の負担増を自社の努力だけで吸収することができず、また運賃の値上げも厳しい。
		金融業（融資担当）	・金利、原油価格の高止まりの影響を受けて、景気は小康状態で推移する。
		不動産業（経営者）	・不動産情報は多少あるが、なかなか成約に結び付かない状況が今後も続く。
やや悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・客の在庫が増えているため、今後の受注状況は悪化する。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・国内市場への中国製眼鏡フレームの流入はここ1、2年、品質、納期の問題で伸び悩んでいたが、ここへ来て再び活発化しつつある。眼鏡枠原材料の高騰に加え、地場産地は更に厳しい状況に向かう。	
	会計事務所（経営者）	・開業医が高齢化し、世代交代の時期になっても、後継者の首都圏での開業や勤務医への希望などの理由から廃業するケースが出てきた。他の事業においても、事業承継に関して潜在していた難問が今後顕在化する。	
悪くなる	建設業（経営者）	・公共事業の発注の極端な減少が続き、多くの建設業経営者はぼうぜん自失の有様で、経営の意欲を失っている。	
	建設業（総務担当）	・公共工事の発注量が減少傾向にあるなか、価格競争もますますエスカレートしており、回復の兆しは見えず、更に悪化する見通しである。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元の中小企業に求人の動きが見られる。不況時とは違い、新規学卒者の雇用予定数が増加している。
		職業安定所（職員）	・平成19年3月新規学卒予定者求人受理説明会を開催したところ、前年比41.1%増と予想を大きく上回る参加があり、先行きは明るい。

	職業安定所（職員）	・新規求職者数は前月比、前年同月比共に減少傾向にあり、就職件数は前年同月比で増加している。また、大量求人もあり、雇用創出が期待できる。
	民間職業紹介機関（経営者）	・企業格差はあるが、アルミ関連を中心に求人数が多く、今後就業のチャンスが増える。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業に求人意欲が感じられず、急ぎの求人も少なくなっていることから、当分現状が続く。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は製造業の一部で前年比増加しているものの、全体的には伸びていない。今後、原油高騰の影響が徐々に響いてくる懸念がある。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-